

# 二千三百人の町に二万八千人が来場 和牛の里「モーモー祭り」で牛乳・乳製品をPR

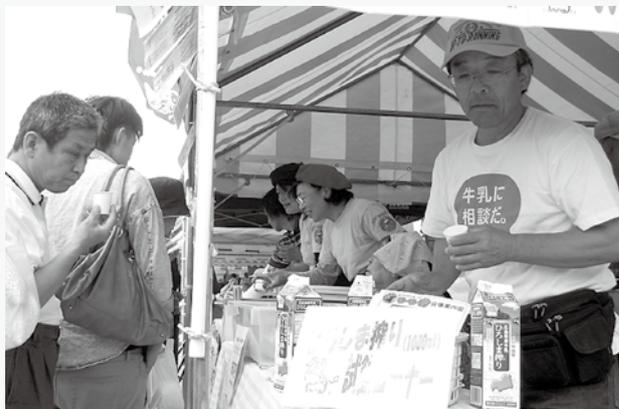


(子供と牛の綱引き大会)

2年に一度開催される「和牛の里」庄原市口和町をPRするモーモー祭が開催され、県内外から多くの来場者で賑わった。着飾った和牛18頭が練り歩くモーモー大行進をはじめ、子供と牛との綱引きや牛の写生大会等、和牛が主役の催しに加えて、地元の踊りや神楽、太鼓等が披露された。

この祭には、地元酪農家らも「地産地消」のジェラートアイスやプリン、もも肉の炭火丸焼き等で出店し、店舗前は長蛇の列で、牛乳・乳製品の消費拡大のPRにあたった。

7日は、RCCラジオ番組とタイアップした演歌歌手 水森かおりさんのショーも開催され、遠くは大阪方面からの参加もあり、大変賑わった。



(来場者に牛乳の試飲を呼びかけ、PRする中山篤志事業推進課長)



(大盛況の牛肉の炭火焼きコーナー)



(町内生乳を使ったアイスをPRする石富さん：右から2人目)

# 飼養管理の重要性を再認識

西部楽酪会(井上正芳会長)は、会員のほか参集圏を広げ広酪組合員外も含めて二十八名が参加して、飼養管理の重要性を学ぶ研修会を開催した。

研修会は、三名の講師による技術研修で、その概要は次のとおり。

## ①ルーメンの働き(ミヤリサン製薬(株)松岡氏)

▼ルーメン機能の恒常化には生菌剤(ボバクチン)給与が効果的と強調し、この給与は、疾病防止、受胎率向上、体細胞数の低減にもつながると説明。質疑では、下岡正弘氏が「以前よりボバクチンを投与している。何故か投与を中止すると牛の体調が思わしくない」と述べ、大変良い添加剤と評価が伝えられた。

## ②ルーメンフィルスコア(NOSAI広島 山県家畜診療所・玉川獣医師)

▼飼料を食べているか否かを酪農家は観察する必要がある。一般にBCSは約四週間以上前からの飼料摂取状況が反映されているが、ルーメンフィルスコア(RFS)は半日〜一日以内のタイムリーな飼料摂取状況が把握できる。見方は、牛の左後方に立って、けん部や腰角部を目視して、この部分のへこみ具合を一〜五段階で評価する。日々の健康管理手段として利用して戴きたいと勧めた。

## ③体細胞撲滅対策(日本全業工業(株)藤賀氏)

▼搾乳時の乳頭表面の拭き取り後、約一分以内にミルカーを装着する必要性を述べ、酪農家でラクトコーダーを利用して、牛の生理にあつた搾乳がされているか否かの試験結果を報告。乳頭刺激後約一分以内でのミルカー装着が過搾乳を防ぎ、乳頭損傷による乳房炎が低減されると強調。

研修会終了後は、隅屋寒三専務(広酪)が酪農情勢を交え、「特に広酪での生乳生産量が低下しており、組合員の経営や組合運営に大きく影響している。一頭あたりの泌乳量を向上させる取り組みをお願いしたい」と促した。

閉会にあたり井上会長は、十一月二十八日、鳥取県皆生で開催予定の「酪農フォーラム」への積極的な参加を呼びかけ閉会した。



## 「福山地方畜産共進会」県共出品牛を選抜



(表彰式で挨拶に立つ山本会長：左端)

福山地方酪農協議会(山本芳紀会長)は、県共進会の予選を兼ねた巡回審査を行い、山本陽一組合員の所有牛を選抜した。

審査団は、東部畜産事務所、広酪、福山市と府中市、協議会役員で構成し、8月24日、管内8戸の巡回審査を終え、9月13日、福山倉庫で表彰式を行った。

表彰式には、行政及び関係機関からの出席があり、樽好美子所長(広酪東部事業所)から「仔牛の部」で優秀賞に輝いた山本陽一さんに表彰状が授与された。

表彰後は飼料メーカー、薬品会社等の関係者も加わり親睦を深めた。